

あくていぶ21 宮木 健 議員



- 1 通学路について
 - (1) 危険箇所の現状把握について
 - (2) 今後の対処について
- 2 産業政策と雇用対策について
 - (1) 中小企業対策と雇用の安定
- 3 図書館について
 - (1) 現状と今後について

質問1 通学路の危険箇所の現状把握と今後の対処についてはどうなっているか。また、提案として、現在のグリーン帯75cm幅を拡充し、歩行者、自転車にも優しい道作りをお願いする。

答弁1 平成23年度登校時に4件、下校時に2件、本年度は5月末現在1件の交通事故があった。5月15日までに

「緊急危険箇所点検」を各校実施。通学路で昨年からの交通事故発生箇所は、51箇所あった。全箇所点検を実施し、地域、学校と協議し、対策する。

質問2 厳しい経済状況の中、中小企業支援と雇用の安定にむけての今までの取り組み、今後について。

答弁2 ものづくり産業支援センターでは企業支援としての利用度、認知度が増加し活性化の役割を果たしている。また、雇用の創出が不可欠であるから緊急経済対策を継続していく。

質問3 20万都市にふさわしい図書館について。

答弁3 新たな図書館サービス方針を定め、時代にあった電子図書館や電子書籍に対応できる施設に、さらに皆の図書館としてサービス向上に努める。県との連携等に取り組んでいきたい。

公明党 藤浪 清司 議員



- 1 予算におけるメリットシステムについて
- 2 熱中症対策について

質問1 「予算におけるメリットシステム」とは、予算執行段階での「予算の使い切り」といった課題や、「職員のコスト意識の向上」といった課題への対応として、経費節減の工夫や、新たな財源確保の取組みなどを評価し、その効果に応じ自由裁量の予算枠を付与する制度で、鈴鹿市でも試行的に実施をしている。この制度の今後について尋ねる。

答弁1 2年間試行して、評価の判断基準が不明確なこと、配分方法に疑問があることなど、課題が多く見えてきた。今後は、財源確保効果に特化したシステムなど、評

価方法も含めた見直しを検討していく。

質問2 近年、全国的に猛暑による被害が深刻化しており、原発停止による電力の供給不足が懸念される今夏は、節電意識の高まりもあり、さらなる熱中症対策が必要である。熱中症情報の提供と要援護者対策、グリーンカーテンやミストシャワーの設置など、熱中症対策への取り組みについて尋ねる。

答弁2 広報やホームページなどで、熱中症情報の提供と予防法の啓発を行っていく。各種団体と連携を図り、様々な活動の中で、要援護者への注意喚起を行っていく。グリーンカーテンは、教育課程に適切に位置付け各学校へ働きかけていき、市民へも啓発に努める。ミストシャワーについては、設置に係る経費などを含め、今後の研究課題としていきたい。

開政クラブ 森 雅之 議員



- 1 下水道事業について

質問1(1) 鈴鹿市の公共下水道の状況と今後の計画について。

答弁1(1) 平成元年より建設に着手、平成8年1月に一部供用開始、その後順次、整備を進めている。基本計画策定から32年経過し、23年度までに投入した事業費は累計で約850億円で普及率は約49%である。現時点では、平成50年度頃を目途に計画区域すべてを整備するよう取り組む予定であり、建設に要する総事業費は概算で820億円程度を見込む。地方債にかかる元利償還

金残高は、23年度末で約336億円である。

質問1(2) 北勢沿岸流域下水道事業(南部処理区)について。

答弁1(2) 本市が接続する流域下水道の管きょ施設と汚水処理施設は三重県が整備している。鈴鹿市・亀山市・四日市市(一部)を対象とし、現在までに、幹線工事(39.4km)と処理場第一期工事が完了。見込まれる総事業費1200億円のうち、約630億円が投入された。今後、第二期工事として海上埋め立て部分の整備工事が計画されている。本市では、23年度で、建設にかかる分約1億6千万円と維持管理にかかる分約6億3400万円を負担している。